

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年3月2日

【評価実施概要】

事業所番号	2275400196
法人名	社会福祉法人「島田福祉の杜」
事業所名	グループホーム あすか
所在地 (電話番号)	島田市中河町326番地の1 (電話) 0547-33-2111

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成20年10月8日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 8月 15日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 16人
職員数	13 人 常勤 12人, 非常勤 1人, 常勤換算 12.6人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	600 円
	夕食	500 円	おやつ	込み
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月 8日現在)

利用者人数	16名	男性	4名	女性	12名
要介護1	12名	要介護2	2名		
要介護3	0名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	74歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立島田市民病院 レシヤード医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市の中心部の北に位置し、商店や民家・郵便局・図書館・市役所等が近くにあつて生活しやすい環境にある。併設施設の協力を得ながら、医療体制が整っているため、利用者・家族の安心につながっている。ユニット各々が同じ理念をもち、重点目標を決め、日々自己評価を行っており、理念に添った介護が継続できるように管理者と職員が一体となっている様子が伺える。今後は、市街地という利点を活かしながら、地域との交流を更に深めていってほしい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	浴槽の手すりの設置、介護計画見直しのモニタリング・個別栄養摂取状況の記録等、会議で取り上げ改善につなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の必要性をよく理解して全職員で取り組んだ。評価結果を振り返ることで問題点や課題を明確にし、情報の共有を図っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在6ヶ月に1度の開催である。施設長・管理者から現状と課題を報告し、市の職員から「運営推進会議」について説明している。家族からは、質問や意見が出され、質疑応答が丁寧に行われており、改善につながる意見は速やかに取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回の家族会や施設内に意見箱を設置し、何でも言ってもらえるように促して把握に努めている。苦情や意見は即、対応して会議で検討して反映する仕組みができてい
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人全体として、地域への取り組みが活発に行われている。防災訓練には、毎年自治会の自主防災委員が参加し、敷地内の防災倉庫には食料や水の備蓄を行うなど、相互の協力体制ができてい。今後は、グループホームの特性を理解してもらえよう、認知症啓発活動を積極的に発信できるように工夫してほしい。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの思いを受け止め、寄り添いながら信頼関係を築き、その人らしい生活ができるように具現化し、ユニット毎に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットごと見やすい所に理念を大きく掲示して共有を図っている。理念に結びつく具体的な重点目標を決め、それに基づき、独自の自己評価表を作成し、全職員が取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として市の老人会や子育て支援等の行事を通して交流に努めている。	○	利用者がその人らしく地域で暮らし続ける基盤づくりとして地域とつながりをもつことは大切なことであるため、地域の一員として今後積極的に交流を深めていくことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。	○	今後は評価の結果を踏まえて改善計画を作成し、実施に向けて全職員で取り組んでいくことを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、市職員、地域包括支援センター職員、施設長、看護師等の参加により開催している。会議の内容が計画的に進められ、反省や記録もしっかりとまとめられている。	○	今回の評価結果で明らかになった課題についても話し合い、サービスの向上に活かすことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、運営推進会議以外では行政との関わりは稀薄である。	○	ホームが培ってきたノウハウを広げられるように、市と連携をとりながら情報提供や共有に工夫されたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ふれあい新聞」を毎月発行して利用者の暮らしぶりについて伝えている。また、金銭管理については、年2回家族会で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	6ヶ月に1回の家族会の運営が着実に進められている。また、施設内に「意見箱」を設置して家族から自由に意見・不満・苦情が言えるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営に支障がないように法人内での異動を考えている。基本的には各ユニットの職員の異動を最小限にして馴染みの職員によるケアができるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、現任研修が着実に実施されている。月1回の施設内研修では、研修の報告がしっかりと行われている等、法人内の研修が計画的に進められている。	○	今後は、外部の研修にも多くの職員が参加できるよう工夫されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国組織のグループホーム協会に加入してネットワーク作りを進めている。しかし、市内にはまだ同業者の連絡会がないため、同業者と交流する機会は少ない。	○	近隣の同業者に働きかけ、地域全体のサービス水準の向上へとつなげていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に施設を見学してもらった上で本人や家族からよく話を聞き、本人のペースに合った生活環境やサービスの方法を考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の喜怒哀楽に関心を持って、一緒に生活する中で信頼関係を築いている。常に「人生の先輩である」という気持ちを忘れずに、場面づくりや声かけを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で「ゆっくり話す」ことを心がけて、利用者一人ひとりの思いをしっかり受けとめるようにしている。意思疎通が困難な方は、家族や関係者から情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや要望をできるだけ汲み取り、家族の意見もよく聞いた上で担当職員が話し合っって介護計画を作成している。更に、他の職員の声も入れながらアセスメントを含め、モニタリングやケアカンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しの期間や状況に応じて見直しが行われ、家族の同意を得ている。月1回担当者会議、カンファレンスが行われ、1ヶ月、3ヶ月と状況確認をしながら対応・話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制は、看護師が緊急時の連絡により対応している。協力医療機関とは365日24時間の連絡体制を確保している。理美容は施設内にて可能になっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医へ家族が同行している。また、協力医が定期的に回診を行っている。受診結果に関する情報は共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応に係る指針を作成し、利用者や家族に説明している。また、協力医療機関との連絡体制を整備すると共に嘱託医・看護師・家族・本人と話し合い、関係機関で方針を共有するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについて研修で徹底を図っているため、職員の言葉づかいや対応に配慮がみえる。記録等の書類は、利用者の了解を得て、開示されている。記録物は丁寧且つ具体的でわかりやすい。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで行うよう支援を行っており、歌や輪投げ等機能訓練につながるものを取り入れているが、強制はしていない。また、食事の片づけや洗い物も男女問わず、やりたい人が行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者の委託で提供されている。利用者の声は職員を通して給食委員会へ挙げている。月3回のおやつ作りや、みそ汁・ご飯・お茶の盛り付け等は利用自身で行い、職員は介助役に回っている。	○	職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るような体制を工夫されたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に合わせて時間・回数を決めている。午前から入浴可能で、毎日入浴する利用者もいる。	○	利用者のその時の希望に応じて、夜間帯や決められた時間・回数以外に入浴可能となる体制づくりを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりにあった役割や楽しみごとの場面づくりを心掛けている。男性が食器の洗い物を率先して行ったり、習字や小物作り・絵手紙・折り紙などの趣味を活かす工夫もしている。レクレーションやイベントも計画するなど楽しみごとを増やす支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前中は、歩行訓練を兼ねて、なるべく戸外へ出るように心がけているが、その日の希望にそった日常的な外出支援はできていない。	○	外出は、その人らしく暮らし続けるための支援として大切である。利用者の楽しみや喜び、力の発揮の場面となり、さらに地域との関係の継続にもつながるため、利用者に合わせた外出の支援を工夫されたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2ユニットそれぞれの玄関は、日中鍵をかけていない。戸外へ通じる出入り口は、タッチ式の自動ドアで、洗濯物を干すなど、利用者が自由に出入りしている。デイサービスセンターへ通じる通用出入り口は、テンキー式で、暗証番号を覚えて利用者は自由に出入りしている。管理者は、鍵をかけることの弊害を理解し、職員に対し、徹底を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回定期的に訓練を行っている。今年は自主防、消防本部、(株)日本防災、食事委託先等、関係機関や地域の協力を得て訓練を行った。食糧や水の備蓄を行い、近隣を支援する体制ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要摂取量の把握のため、排泄と水分補給をチェックし、記録を一覧表にて共有している。また、水分が足りない利用者には補給を促している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室やトイレは広く清潔である。食堂・居間・台所も掃除が行き届いている。フローアには大きなカレンダーが掲示され、時計も見やすい所に設置されている。また、照明や光線の入り具合も良く、畳敷の小部屋には腰掛があり、ゆったりと寛げるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのダンスやテレビ・小物を手許に置き、好みのものを飾る等、利用者の生活スタイルに合わせた部屋作りを行っている。職員は、利用者の使い勝手を念頭に置き、快適に生活できるよう支援している。		